NAD Monthly Report.

Market Flash

Merry Christmas !

2025.12

日本アルプス電子株式会社
NIHON ALPS ELECTRONICS CO.,LTD.

今年の漢字に「熊」

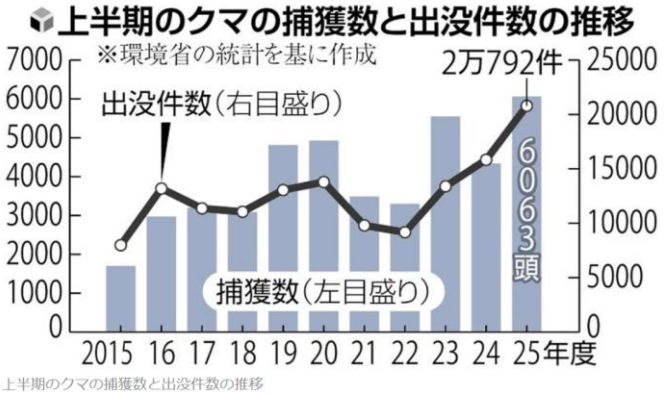
2025年は、初めて「熊」が第1位となった。
全国各地で「熊」の被害が相次ぎ、市街地にまで「熊」が出没するなど、生活や経済活動にも深刻な影響を及ぼした。熊の出没数は一昨年もかなり多かったが、今年の大きな特徴は人里に多く現れていることである。人間という存在を恐れなくなった。猟師が少なくなり人間は怖い者という本能が変わりつつあるのではないだろうか。
2位には「米」。米不足から米の高騰が治まらない状態が続いている。政府の農業対策が定まっていないためであろう。
いずれも来年は選ばれてほしくない漢字である。

2位：「米」（23,166票）
3位：「高」（18,300票）
4位：「脈」（6,418票）
5位：「万」（5,656票）

＜2025年熊被害状況＞

環境省は４日、今年度上半期（４～９月）の全国のクマの出没件数は２万７９２件（速報値）だったと発表した。２０２４年度同時期の１万５８３２件を大幅に上回り、統計の残る０９年度以降では最悪のペースとなっている。今年度上半期の捕獲数も６０６３頭（同）と０６年度以降、最多だった。

上半期のクマの捕獲数と出没件数の推移
　環境省によると、警察への通報件数や市町村からの情報などをまとめた出没件数は、初めて上半期で２万件を超えた。
件数を公表していない北海道を除く都府県別でみると、最多は岩手の４４９９件で、秋田４００５件、青森１８３５件、山形１２９１件と続いた。
東北地方だけで６割を超えている。



上半期のクマの捕獲数と出没件数の推移

○ **令和7年度の出没件数、被害者数、死亡者数が多い5都道府県※1**

	出没件数（4月～8月）
岩手県	3,453
秋田県	3,089
青森県	1,386
山形県	972
新潟県	815

	人身被害者数※2（4月～9月）
岩手県	22
秋田県	19
長野県	15
新潟県	9
福島県	9

	死亡者数（4月～10月）
岩手県	5
秋田県	3
北海道	2
宮城県	1
長野県	1

※1 北海道は出没件数の公表は行っていないため、出没件数は北海道以外の都府県の合計。人身被害、死亡者数は全都道府県の合計。
※2 負傷者数と死亡者数の合計。

3

本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。

＜捕獲数＞

10月末現在の環境省が発表した熊の駆除数は、全国で9,867頭（内捕殺9,765）ツキノワグマが8,781、ヒグマ984頭となっている。いずれも2008年以降最多。県別でみると最も多いのが秋田県の1,973頭、続いて青森1,154、福島県1,153頭となっている。北海道は984頭のヒグマである。

＜なぜ人里にクマが現れるようになったのか？＞

１．里地の変化

里地における変化としては、過疎化や高齢化による人間活動の低下、耕作放棄地の拡大、放任果樹の増加等があげられる。

まず、クマ類に影響を与える直接的な要因として考えられるのが、人間活動の低下。過疎化、高齢化が進行している中山間地域の里地では、集落内で活動する人の数も減少している。こうした人間活動の低下は、クマ類の警戒心を低下させ、里地付近での出没件数を増加させる可能性がある。

また、里地の自然環境の変化として、1990 年代以降の耕作放棄地の拡大があげられる。管理がされていない耕作放棄地が拡大すると、藪やヤマブドウ等のつる植物の液果類が増加。こうした植物の増加はクマ類の行動を変化させる可能性がある。例えば、藪はその面積が増加することで、クマ類にとっての隠れ場所を増加させることになる。そして、集落近くに隠れ場所が増加することで、クマ類は人目につかずに集落周辺を移動できるようになる。また、つる性植物の液果類はクマ類にとっての食物となる。里地付近でこうした食物が増加することで、クマ類が食物を求めて里地付近に出没する可能性が高まるのである。このように、耕作放棄地の拡大は、クマ類に隠れ場所や食物を供給することになる。

さらに、放任果樹の増加もクマ類の生息状況に影響を与えている。過疎化、高齢化が進行している中山間地域の里地では、住民による管理が難しくなったカキやクリ等の果樹類が放置されていることがある。収穫されずに放置された果樹類はクマ類にとっての良質な食物となり、特にカキについてはツキノワグマを集落内まで誘引することが報告されている。

このように、中山間地域の過疎化や高齢化による人の活動の低下や耕作放棄地の拡大、放任果樹の増加といった変化は、里地をクマ類の出没しやすい環境に変化させているのである。

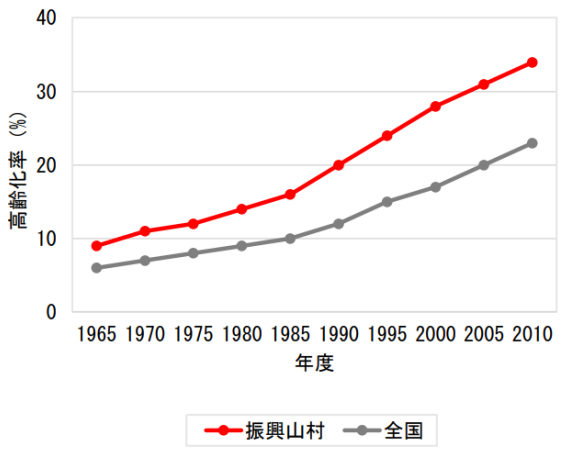


図 4-2-1　人口と高齢化率の推移（上：人口、下：高齢化率）

出典：令和元年度森林・林業白書（林野庁．2020）

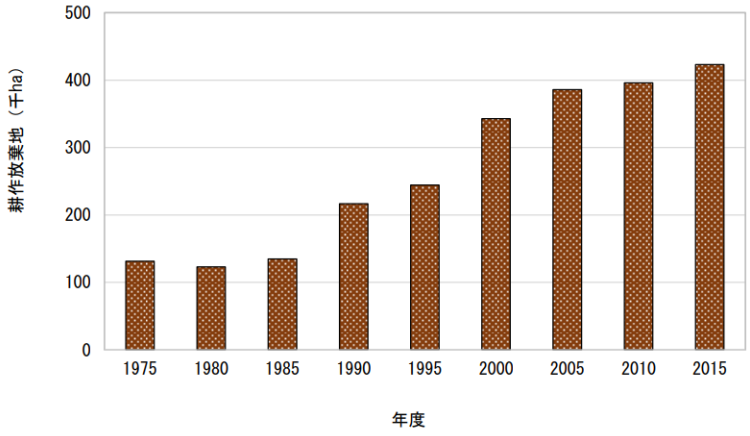


図 4-2-4　全国の耕作放棄地の面積の推移

本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。

２．里山の変化

里山の変化としては、里山の利用頻度の低下に伴う森林の回復や、燃料革命に伴う森林の構成樹種の変化があげられる。

薪炭林や農用林等の利用のため、日常的に人間が出入りしていた頃の里山は、はげ山もしくははげ山同様の状態であった。しかし、その後の燃料革命や肥料革命により里山の利用頻度は低下し、荒廃していた森林は森林蓄積量の増した豊かな状態へと回復した。この森林蓄積量の増加は、里山をクマ類にとっての好適な環境へと変化させている。天然林等の森林蓄積量は、昭和 41（1966）年度から平成 29（2017）年度までの 51 年間で 4 割程度増加した。森林蓄積量が増加する理由としては、森林面積の拡大と樹木の大径木化による材積の増加の 2 通りが考えられる。天然林等の森林蓄積量をその森林面積で割った、1 万 ha あたりの森林蓄積量の推移を確認すると、天然林等の森林面積あたりの森林蓄積量は増加傾向にあることが分かる。つまり、天然林等の森林蓄積量の増加は、森林面積の拡大ではなく、樹木の大径木化によるものであるといえる。このような樹木の大径木化はクマ類の食物環境や生息環境に影響を与える。例えば、クマ類が好むブナやミズナラは胸高直径が大きくなるほど、種子生産量も増加することが知られている。また、大径木はクマ類の冬眠穴としても利用されます。このように、大径木の増加は、里山をクマ類にとっての好適な生息環境に変化させているのである。

また、地域によっては、森林を構成する樹木の構成種が変化していることも報告されている。かつて兵庫県では、アカマツ林や自然草地が数多く存在していた。しかし、薪炭林の利用が減った 1960 年代以降以降に植生遷移や植林が進み、現在の落葉広葉樹やスギ・ヒノキ人工林が多く分布する森林へと変化した。このことから、ブナやミズナラ、コナラ等の堅果類や、サクラ類やミズキ等の液果類といった広葉樹由来の食物を利用するクマ類にとって、里山はより好適な生息域へと変化していることが分かる。

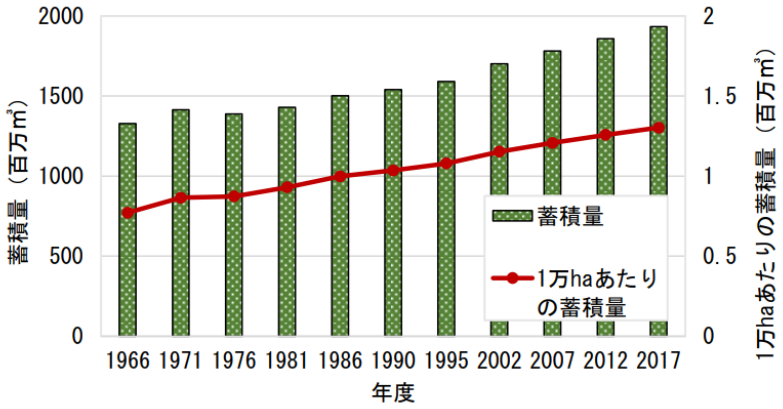


図 4-2-5　天然林等の森林蓄積量と 1 万 ha あたりの蓄積量の推移

天然林等は人工林以外の森林を指す。

出典：令和元年度森林・林業白書（林野庁．2020）

以上のように、里地里山はクマ類の利用しやすい食物環境、生活環境に変化しているため、個体数も増加し人里近くに出没すること多くなったと考えられる。

一般的に、食料不足で人里に進出してきている、「アーバンベア（都市慣れしたクマ）」が増加してきているといわれるが、大元をたどれば今見てきたように里地里山の変化が根本的要因と考えられるであろう。

もちろん猟師の減少、温暖化による冬眠の遅れや短縮化なども上げられるであろう。

本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。

2025年流行語大賞

大賞：「働いて働いて働いて働いて働いてまいります」内閣総理大臣 高市 早苗 さん
今の時代に逆行した言葉であるが、久しぶり政府の力強い言葉であると感じた。働き方改革推進に取り組む経済界はド肝を抜かれたであろうが、低迷した20年を取り戻すにはこのくらいの気合が必要であろう。
日本の初の女性首相、午前3時の公邸入りはさらなる物議をかもし、議員宿舎のファックス紙詰まりという報道もあったが、一方で、共感した昭和世代も実は多かったのではないか。「仕事ってそういうものだったな」と。
国内・外交、問題は山積み。どれも油断は許されない。中国とはぎくしゃくしているが、やはり毅然とした態度で臨んでほしい。
働いて働いて働いて働いて働きながらも、人を活かし自分を伸ばす、高市流「シン・ワークライフバランス」に期待したい。

エッホエッホ　マルチアーティスト うじたまい さん、X（旧Ｔｗｉｔｔｅｒ）アカウント名 うお座 さん
ネットにあがっている画像や動画を別の人がオチをつけて改変して拡散して楽しむミーム。
今年、話題になったミームが「エッホエッホ」。

オールドメディア　　環境副大臣・参議院議員・作家 青山 繁晴 さん
このところの首長選挙や国政選挙において、〝影響力のあるのはSNS。新聞・テレビは今や不要のオールドメディア〟との論評が出回るようになった。
戦況に興味のないものが広告料目当てで面白おかしく動画を作成、それもAIを使って簡単に作成できる。多くの誹謗中傷が混じった動画や事実とは異なるフェイクニュースを流す動画が増えている。その先端を行っていたNHK党首が逮捕された。事実を見極める目が必要な時代である。

緊急銃猟／クマ被害　ガバメントハンター 田澤 道広 さん
今年の漢字にも選ばれた熊に関する言葉。人里に現れた熊を人命を守るために緊急で捕殺すること。
2025年10月15日、全国初の緊急銃猟によるクマの駆除が宮城県仙台市で行われた。

国宝（観た）映画「国宝」製作委員会 さん
観客動員数1231万人、興行収入173.7億円を突破、邦画実写の興行収入ナンバー1に輝いた。
動画配信サービスが普及している現在、この記録的数字は劇場に足を運ぶ人の熱量そのものを表している。

古古古米　一般財団法人日本米穀商連合会 さん
今年の漢字の第2位、それも1位と200票差。今年一年このコメ問題はいまだに解決していない。どうも政府はの政策が明確ではない。いまだにコメが高いのは、明らかにJAや卸業者が高値（昨年の1.7倍）で新米を買い取る約束をして買い取っているからである。在庫が積み上がりなかなか値を下げて卸せないために高値のままだ。昔から言われている農協対策が必要であろう。

戦後80年／昭和100年　ノンフィクション作家 保阪 正康 さん
戦後80年であるが、世界各地で紛争が絶えない。人類の永遠の課題であろう。日中間の問題も中国側が強硬姿勢を崩していない。なぜ人間は友好を保てないのであろうか？永遠の課題である。

本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。

トランプ関税　経済産業大臣 赤澤 亮正 さん
これも今年世界を混乱に陥れた。いま米国の法廷で違憲かどうかの審判が下ろうとしている。トランプ大統領の無法行動もそろそろ収まる頃か・・・！？

二季
三重大学 大学院 教授 立花 義裕 さん、三重大学 大学院 博士前期課程 大学院生 滝川 真央 さん
これは今年に限らずずいぶん前から日本人は感じてきたことではないだろうか？春が来たと思ったらすぐ猛暑になり、秋のシーズンはほんの数週間、そして冬は大雪。こんな季節がもう数年続いている。温暖化も人類の大きな課題となっている。

ミャクミャク　大阪・関西万博 公式キャラクター ミャクミャク さん
開催前は人で不足や物価高騰でパビリオンの建設が間に合うか心配され、入場者の見込みも本当に達成できるのか、あのミャクミャクはなんだかおかしい？等々不安視された大阪万博は見事に不安を消し去り大成功に終わった。
一般来場者数は最終的に2557万8986人で、関係者を含めた総来場者数は2901万7924人。愛知万博の記録を上回り黒字見込みとなった。

2025年のヒット商品番付

日本経済新聞社は2025年の日経MJヒット商品番付をまとめた。
東の横綱は20年ぶり日本開催となった「大阪・関西万博」、
西の横綱は22年ぶりに邦画実写の興行収入記録を塗り替えた「国宝」とした。（いずれも流行語大賞で紹介済み）

今夏は「酷暑商戦」（前頭筆頭）がキーワードとなるほど、暑さが消費を左右した。映画館が活況を呈した背景には、屋外よりも空調の効いた場所で過ごしたいという消費者心理も働いた。

ホテル価格の高騰は関心を呼んだ。一因は「インバウンド4000万人」（前頭筆頭）だ。日本政府観光局（JNTO）によると、25年1～10月の訪日客数は前年同期比約18%増の3554万人で、年間では4000万人超えが視野に入る。

物価高の影響が及んだのはレジャー消費だけではない。西の関脇は「米（コメ）フレーション」。

マンション価格も高騰が続く。不動産調査会社の東京カンテイ（東京・品川）によると、東京23区の中古マンション価格（70平方メートル換算）は集計開始以来初めて1億円を超え、新築に続き「中古億ション」（前頭15枚目）も珍しくない。マンションが高根の花となり、都内では割安な狭小戸建ての販売が活況だ。

東の関脇は「日経平均5万円」。初の女性首相となった高市早苗首相の誕生から約1週間後の10月27日、日経平均株価は史上初めて5万円の大台に乗せた。

株高は海外旅行や宝飾品など高額消費を後押しする。富裕層消費はより活発でイタリアの高級車メーカー、フェラーリの11月の新車販売台数は過去最高を更新した。

2025年ヒット商品番付

東		西
大阪・関西万博	横綱	国宝
ドジャース連覇	大関	任天堂「Nintendo Switch 2」
日経平均5万円	関脇	米(コメ)フレーション
劇場版「鬼滅の刃」無限城編 第一章 猗窩座再来	小結	LABUBU
インバウンド4000万人	前頭	酷暑商戦
Plaudシリーズ	同	バンダイ「Tamagotchi Paradise」
Aiロボティクス「Brighte『SHOWER DRYER』」	同	イタリアンブレインロット
資生堂「肌グミ」	同	コーセー「コスメデコルテ AQ 毛穴美容液オイル」
小学館「GOAT」	同	ポケモン生態図鑑
花王「ピュオーラ 炭酸ハミガキ」	同	I-ne 再生柔軟剤「ReWEAR」
スニーカーローファー	同	しまむら「姿勢サポートブラジャー」
明治「生のとき しっとりミルク」	同	串カツ田中「無限ニンニクホルモン串」
シール交換	同	オアシス再結成
ミスタードーナツ「もっちゅりん」	同	キリンビール「キリングッドエール」
ローソン車中泊	同	熊撃退スプレー
ケルヒャー ジャパン「OC Handy Compact」	同	10万円コンデジ
Mrs. GREEN APPLE	同	しなこ
ホンダ「プレリュード」	同	ボムバスターズ
中古億ション	同	JR東日本「高輪ゲートウェイシティ」

技能賞	KDDI「au Starlink Direct」
殊勲賞	フォーエバーヤング
話題賞	脱・紙ストロー、王谷晶「ババヤガの夜」、柚木麻子「BUTTER」
残念賞	日本マクドナルド「ハッピーセット」

(注) 2025年の消費動向や売れ行き、開発の着眼点などを基にランク付けした

本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。

＜２０２６年のヒット商品＞日経トレンディが選んだベスト10

1	「ひみつ道具」の世界が現実に	多言語リアルタイム翻訳
2	バッテリーの"見える化"で急加速	中古EV
3	若者が飛び付く「数百円でワンプッシュ」	スプレー型「香水」自販機
4	サービス精神あふれる"令和のご用聞き"	生成AIショッピング
5	シンプルに口が臭くならないマウスウォッシュ	ザ・ブレスコ
6	レンチンで自宅にいながらレストランの味	「常温保存」生パスタ
7	飲食店向けファストパス	SuiSui（スイスイ）
8	熱中症対策で芝生も屋内に	のびっこピクニック
9	価値が安定した"使える"仮想通貨	ステーブルコイン（円連動）
10	「メガシンカ」を遂げた「ポケットモンスター」最新作	Pokémon LEGENDS Z-A

＜苦労キャンセル界隈＞
1位　多言語リアルタイム翻訳
4位　生成AIショッピング
7位　SuiSui（スイスイ）

英会話のために何千もの単語を覚え、おいしいもののためには何時間も並ぶ・・・かつては「買ってでもしろ」といわれた苦労を、ITの進化で「キャンセル」できる。
費用は掛かるが、技術や知識の習得に要する膨大な時間を思えばたいしたことではない。テーマパークのファストパスのように「時間を買う」時代だ。
AIはいよいよ生活の中に入り込んでくる時代である。
時間の使い方でパフォーマンスが変わる時代であろう。

＜エコノミーグルメ＞
6位　「常温保存」生パスタ
17位　生のとき　しっとりミルク
21位　KEY　DOORS＋JET　BREW

生パスタや生チョコなどが製造技術の進歩により手軽かつ安価に手に入る時代に。

＜ムード消費＞
3位　スプレー型「香水」自販機
5位　ザ・ブレスコ　⇒口臭対策特化のマウスウォッシュ
12位　ノスタルジックな「低スペックカメラ」

若者を中心に、精神的な充実感を得るための消費行動が広がる。気分やシーンに合わせて異なる香りをまとえるスプレー型香水の自販機や口臭ケアのマウスウォッシュが気持ちを上げる。

＜アフター万博＞
9位　ステーブルコイン
14位　「セルフ式」コンビニラーメン

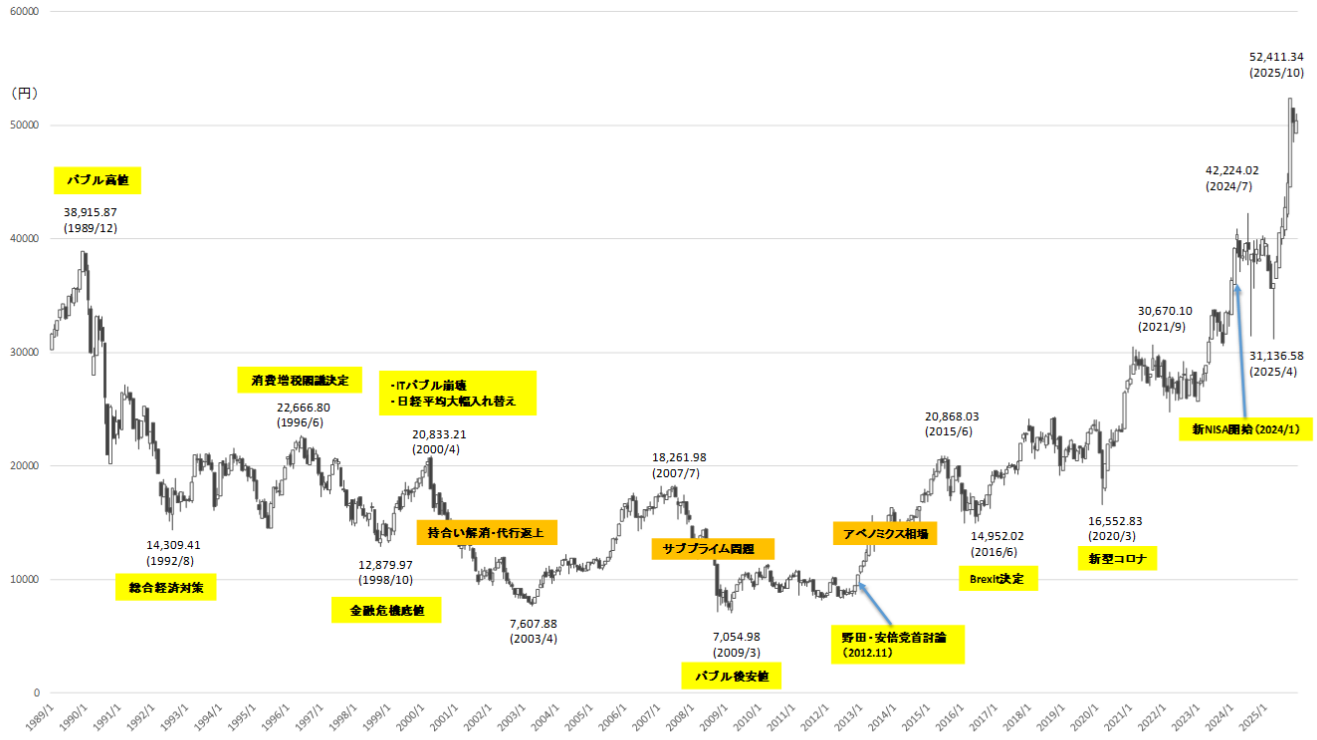
大阪簡裁万博で使用された公式ウォレットアプリを利用した円連動のステーブルコインが新たな「キャッシュレス決済として普及しそうだ。また会場内で稼働していた「セルフ式」ラーメンもはやりそうである。

＜二季の国＞
8位　のびっこピクニック

猛暑が続き二季の国になった日本。熱中症対策として外向けだったアクティビティを室内空間で楽しめる施設が増えそうである。

本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。

＜株式市場動向＞



Quickデータをもとに SBI証券が作成。月足チャートの各月の高値・安値は日足終値ベース。主要転換点の株価はその月の月足高値、または同安値を表示しています。オレンジ色の表記は、上昇または下落相場の主要因を示しています。2025年12月の月足終値は暫定的に12/5終値としています。

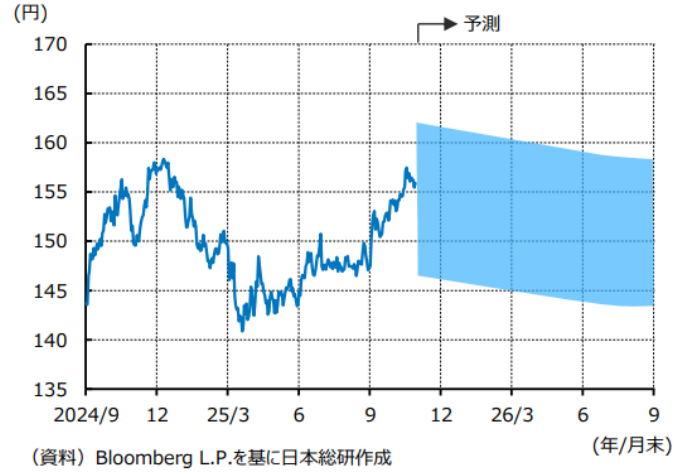
現在の上昇相場は「アベノミクス相場」を起点としているように見受けられる。2012年11月末終値（9,446円）から本年12/5終値（50,491円）まで日経平均株価は約5.3倍の上昇率になっている。
同じ期間の米S&P500指数は、1,416.18→6,870.40で4.85倍の上昇率なので、相対的にも好パフォーマンスといえそうである。

もっとも、同じ期間、ドル建て日経平均株価（Quickベース）の上昇率は、円安・ドル高の影響で2.84倍にとどまり、海外投資家から見れば日本株の方が出遅れているように映っているようである。
また、東京株式市場が平成バブルの高値を付けた89年末終値（38,915円）から12/5高値までの上昇率は29%。S&P500指数は89年末353から12/5まで19倍の上昇。平成バブル崩壊後の長期低迷が響いており、長い視点で考えれば、東京株式市場の出遅れは顕著であると考えられる。

本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。

＜為替動向＞（日本総研）

ドル円相場見通し



（資料）Bloomberg L.P.を基に日本総研作成

(円)

	2025年		2026年		
	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9
期中平均	147.49	153	150	150	148
（高値）	150.92	163	160	160	158
レンジ	〜	〜	〜	〜	〜
（安値）	142.68	147	144	144	142

予測

11月のドル円相場は、下旬にかけて一時157円台後半へドル高・円安が進行。米国では、政府閉鎖の解除を受けて投資家のドル売り姿勢が和らいだほか、ＦＲＢ高官のタカ派的な発言が相次ぎ、早期利下げ観測が後退したことがドルを押し上げ。

一方、わが国では、政府が大規模な補正予算を成立させるとの見方から、財政悪化懸念が高まり、投資家の円売り姿勢が強まり、12月に入ると、一時154円台後半へドル安・円高が進行。米国では、経済指標が市場予想を下回ったほか、わが国では、日銀高官のタカ派的な発言を受けて早期利上げ観測が高まったことなどが背景。

◆今後の見通し

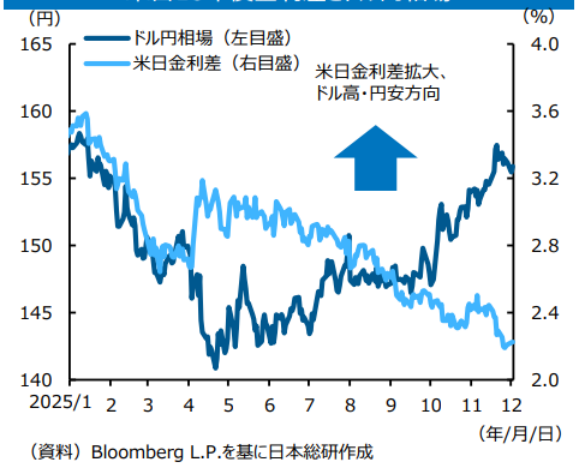
先行きのドル円相場は、米日金利差の縮小を背景に緩やかな円高基調で推移する見通し。米国では、関税政策の影響で景気の減速が見込まれるなか、雇用情勢の悪化を防ぐためにＦＲＢは段階的に利下げを実施する見込み。一方、日銀は次の春闘賃上げ動向や米関税政策による企業業績への影響などを見極めたうえで、来年初にも利上げを実施すると予想。

＜ドル円相場と金利差との関係性は希薄化＞

2025年４月以降のドル円相場は、米日金利差との関係性が希薄化。とりわけ、年後半以降は、わが国の長期金利が上昇したにも関わらず、円安が加速。

積極財政・金融緩和姿勢の高市政権発足を受けて、わが国の財政悪化への懸念が高まり、円売り圧力が強まったことが背景。わが国の10年債利回りと市場参加者による本年末の政策金利織り込みの推移を確認すると、日銀の利上げ織り込みが後退するなかでも、長期金利が上昇しており、タームプレミアムが拡大。

米日10年債金利差とドル円相場



（資料）Bloomberg L.P.を基に日本総研作成

本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。

この１年、このレポートを読んで頂き誠にありがとうございました。

締めくくりとして、恒例の今年の話題をまとめてみました。
今年は、今年の関jに表れているように日本国内では「熊」「米」騒動が起こり、世界ではトランプ騒動が世界を揺れ動かしました。ウクライナ・ロシア、イスラエル・ガザ等紛争が絶えない世界になり、中口に北朝鮮が加わり、世界のパワーバランスも崩れてきています。
日本では初の女性首相が誕生し、「働いて　働いて　働いて　働く」と力強く日本を引っ張ろうとしています。一方で、物価高騰、米不足など一般消費者にとっては一向に生活が楽にならない世の中でもあります。経営者はより賃上げを実施し、積極的投資をしていく姿勢を示さないとより苦しい世の中になっていくのではないでしょうか。日本の企業の内部留保（利益剰余金）は増加傾向にあり、2024年度末で約637.5兆円に達し、13年連続で過去最高を更新しています。日本のGDPに匹敵する内部留保こそが日本経済を低迷させている大きな要因ではないかと思っています。
来年は「丙午」、情熱・勢い・力強さが特徴の、大きな飛躍や挑戦に良いとされるパワフルな年でうあ。その通り大きく飛躍し転換する年としたいものです。

【スポーツ】
- サッカー日本代表、FIFAワールドカップ（2026年大会）アジア最終予選を首位で突破
- 大谷翔平選手、MLBシーズンMVP
- サッカー日本代表、史上初のブラジル撃破
- 阪神、両リーグ史上最速となる9月7日に優勝
- 女子ゴルフ、米メジャーを続々制覇
- 大の里、豊昇龍が横綱昇進、安青錦が大関昇進
- 長嶋茂雄さん、6月3日に89歳で亡くなる

【海外】
- ロサンゼルスで山火事
- 第47代米大統領にトランプ氏が就任
- ウクライナ侵略3年、トランプ氏はゼレンスキー大統領を罵倒
- 米イスラエル、イラン核施設をそれぞれ空爆
- 中露朝首脳が北京で軍事パレードを参観
- ガザ和平計画「第1段階」合意
- 中国、高市首相答弁に反発　渡航自粛呼びかけ

【国内】
- 高市内閣の発足：憲政史上初の女性首相誕生と政権交代
- 自公連立政権の解消と日維新と新たな連立の樹立
- 大阪・関西万博の開幕と閉幕
- クマによる被害の多発と捕獲数の急増
- 米高騰、初の備蓄米放出
- 猛暑、群馬・伊勢崎市で過去最高の41・8度
- 学歴詐称、ラブホ、セクハラで市長、知事が辞職、失職
- 坂口志文、北川進両氏がノーベル賞受賞
- 中居正広＆フジテレビ問題
- 「SHOGUN 将軍」GG賞4冠達成

【訃報】
- 森永卓郎　・いしだあゆみさん　・仲代達矢
- みのもんたさん　・橋幸夫　・釜本邦茂
- 村山富市　・吉行和子

本年も大変お世話になり誠にありがとうございました。
来年も引き続きお引き立てのほど宜しくお願い申し上げます。

来年も皆様にとって健康で明るい年になりますよう心より
お祈り申し上げます。

本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、正確性、完全性を保障するものではありません。